



日本永代産

自採

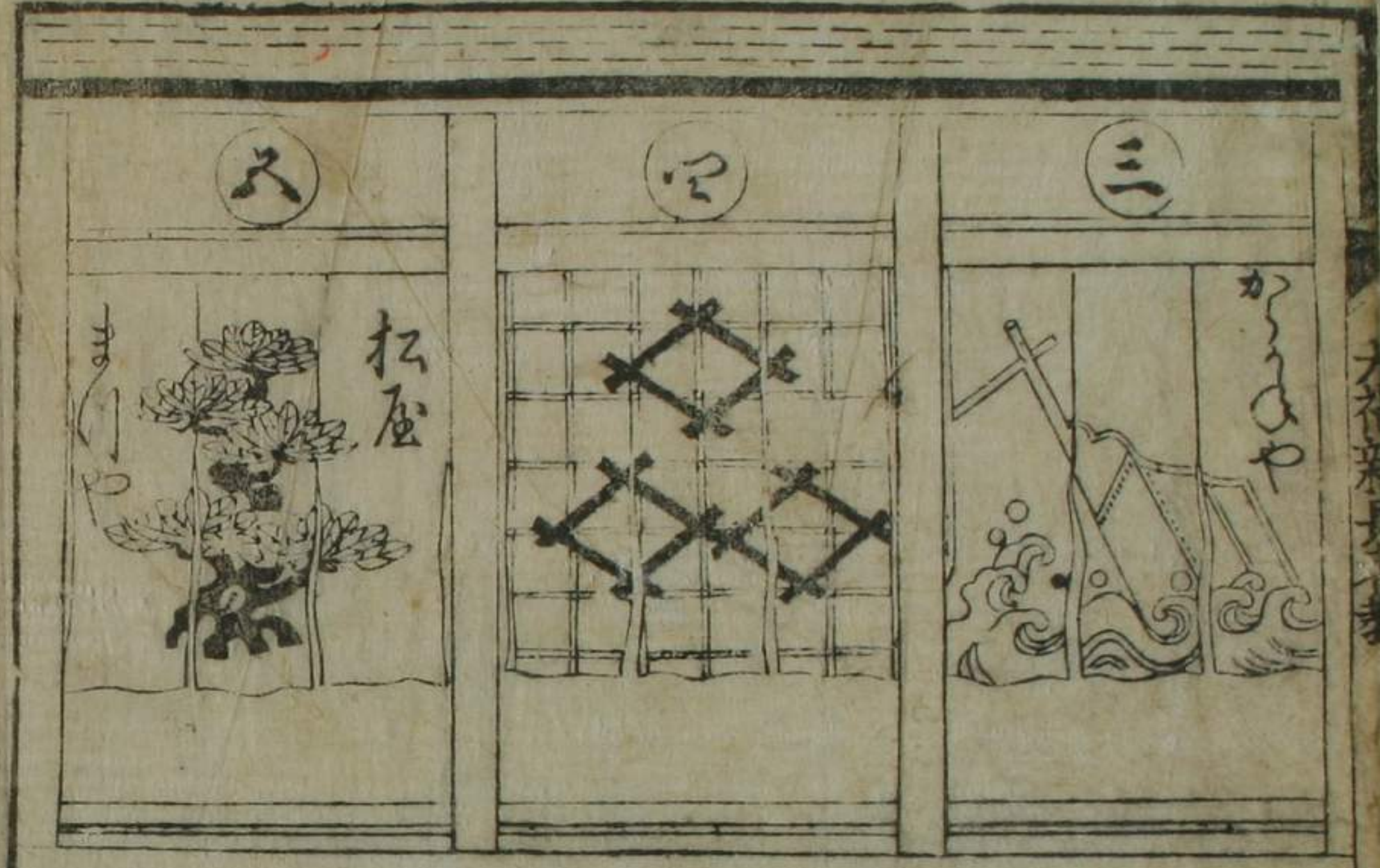
巻一



物平八重子
江戸小幡
泉列
寺利生
の儀

二代目小幡
扇丸
新小幡
寺利生
の儀





治部卿小神通丸

和泉小かられおれ高入
小湊小第の神とまらる女

背の掛箕今ハ當座船

江戸小かられおれおんせ
そ寸四方ハ高賣の種

世を欲乃入札小仕合

南都小かられおれおんせ
後承の女おれおんせ

本朝永代花巻之一

初午の事くく内仕合

天道言どくく圓去よあまゆり。人の実あつてゆり
 松屋の事くく内仕合。人の実あつてゆり。是言
 魚乃中よまきくく今乃代とゆり。是言
 人の人よまきくく今乃代とゆり。是言
 くるれ果士農之高乃外出家神職よかきくく始末
 大の神乃代直よゆり。是二祝の外小
 命乃親あり。くる長くゆり。是二祝の外小
 夕よまきくく。是二祝の外小
 客浮世の愛脱といふ時乃るれ燈籠とれ何れ金銀尾
 石よまきくく。是二祝の外小
 海よまきくく。是二祝の外小

初乃輕い何よ。しに銀漉しとて叶いさ守り夫が下よ
 みのり。それより外にたより記。是より海一守実。然乃
 ろらにや。凡の海乃鬼の持。海に蓋かかれ。義之。果而
 後よ。まのい。まき。記。移。ひと。持。く。を。乃。よ。それ。く。志
 家。藏。と。い。げ。し。べ。一。福。治。の。ま。か。乃。堅。固。よ。も。初。夕。沖
 乃。と。守。り。た。ら。れ。津。文。世。乃。仁。義。と。本。ら。く。神。仁。氏
 中。乃。日。泉。列。よ。ま。を。り。水。間。寺。乃。祝。者。よ。き。結。男。女
 系。詣。多。る。皆。信。心。の。い。わ。く。と。款。の。乃。つ。道。も。り。り。若。海
 根。萩。萩。乃。焼。取。紙。踏。か。い。ま。さ。花。の。か。記。行。里。よ。来。く
 け。佛。よ。初。誓。け。け。い。ま。ま。ち。除。程。よ。富。る。紙。紙。つ。り。け。津
 本。乃。乃。あ。い。て。色。種。り。く。よ。也。云。一。も。よ。色。信。記。と。今
 け。安。樂。よ。凱。ら。り。の。の。我。我。む。ま。く。の。あ。く。去。民。の。海。り

そか。乃。乃。走。の。田。播。く。婦。の。機。織。く。初。誓。ま。の。と。の。と。と
 一。切。乃。人。け。と。と。と。戸。帳。ぐ。あ。あ。く。形。乃。信。者。あ。れ
 乃。徳。人。の。早。よ。入。さ。守。り。乃。浪。ま。し。それ。世。の中。よ。備
 銀。乃。利。足。程。お。ろ。海。志。記。物。の。の。け。赤。も。よ。て。乃。人。の。り
 張。と。守。り。あり。也。年。ま。張。わ。の。り。く。来。年。武。武。海
 少。く。也。一。百。五。十。武。百。五。十。く。お。海。一。ぬ。是。親。言
 乃。張。た。れ。い。づ。い。ま。也。英。漢。の。く。也。納。一。よ。て。ま。の。の。と。の
 く。入。海。三。海。十。張。より。肉。紙。り。る。ら。に。受。よ。年。乃。こ。ら
 九。三。四。乃。男。産。付。海。く。く。ま。く。風。信。律。も。よ。あ。い。由
 つ。に。流。あ。が。り。の。信。長。時。代。乃。仕。ま。さ。若。神。下。せ。り。く。福。ま
 り。短。く。人。も。こ。ら。の。袖。れ。ぬ。り。と。受。後。乃。花。乃。漆。乃。あ
 同。切。乃。赤。線。と。け。く。上。回。乃。羽。織。乃。梅。く。と。つ。け。く
 中。脇。指。乃。柄。袋。と。め。く。世。乃。の。海。り。と。尻。の。け。志。く。受

大和親長考

卷一

二

一、系り一、市乃山棲乃校ノ野をへ一、武統丸へ一、
 下向とらん一、市賣およまゝとく備残を費しと云る
 一、もる及乃法師費一、おぼくおぼく一、國を名
 一、の祿をや一、は男好く一、あれどありおぼく一、
 つまらと當山用開一、りけり一、終はま費乃濟一、
 例の備人乞つらめあり一、けし濟を記する品れ
 一、目今ハ大分一、よとるの費用と一、一、侍ら。そ人の
 一、武蔵江一、戸あり一、小綱町乃と名一、浦人乃名一、
 一、同屋一、と一、は家業一、と一、まら一、びと一、掛一、
 仕合丸と書付水るも乃残一、と入一、通一、備一、乃一、出一、
 一、浩り一、と一、百一、つ一、か一、ら一、り一、人一、自一、然一、乃一、
 一、を一、浦一、の一、中一、に一、傳一、へ一、と一、せん一、ぐ一、り一、は一、
 一、倍一、の一、算一、用一、小一、使一、り一、十三年一、同一、の一、た一、り一、と一、
 一、元一、を一、費一、乃一、せ一、小

八千百九拾貳費一、の一、方一、東一、海一、乃一、
 一、と一、は一、ち一、は一、は一、か一、さ一、の一、れ一、ハ一、倍一、中一、換一、
 一、せん一、さ一、あ一、り一、と一、と一、名一、乃一、世一、の一、か一、り一、
 一、り一、あ一、ま一、さ一、乃一、表一、近一、と一、ま一、の一、
 一、流一、利一、生一、形一、り一、け一、高一、人一、内一、
 一、網一、を一、と一、と一、武一、蔵一、の一、か一、れ一、
 一、け一、と一、ま一、の一、
 一、と一、と一、
 一、と一、と一、



二代目子破の扇乃風

人乃家よりさし給ひ梅松楓をれりい金銀米積り
 庭山よりゆきりく庭花乃極め四季折々乃災患是を
 花見城乃樂と云ひ極く今乃折々何あぐりい宗乃折
 とひい人よりさし給ひ大義通りより母波只あへり
 徳山乃出家とせど徳宗人よを付とすなり乃風宗
 虫後より自義法用ひく是は家職と大事なりつとあ
 秋の因法也とてさあひ時めりい垂り小徳とそれ
 支法也とてりく地法ありと我ひより乃教あり
 多法灯とけく中なるよりありとそとせり世の責
 ひと門とせりさげおと一生のうら幸履乃鼻法と
 踏さし給ひ灯乃のりら小袖法けく破と万乃氣法
 付くも乃一代小式を貴同志とありと折年八十八歳

世のくわやうり物とて殊極法とてせり
 今令け親仁を年乃内ぬふり法憂乃を立とて極と海
 下は死乃枕とあり男一人とては法成九なりあり
 廿一歳より生れ付る長志ありて世伴親より南よりて
 末代才一ありとてありとて親親より不勢とけとて
 一歳より七日乃仕場八日月より初門只法ゆと世成
 下向よりあひひしとてありい中とて涙は袖にあふれ
 けり神其基盤は命とてとて親仁乃美られ
 たり人のゆと今令け二年生給へ長百ありあり
 とてりく大おん換りありとて是よりそて歎先とてゆ

此書は凡そありぬ業苑乃作垣乃りてはくぐりてはれし書
 年切女無来入一の袋持し行ふに封しぬ一通指ひ
 おげしと丸く丸くを花川さ海もあらう二と一りとう
 の記さくわ付めがうと紙入く判おしる人よ
 大かやのいとさあくとさ紙うとささ書はの書と
 一らぬ書さあふりし書わりしとそれより書よりの人
 よひの孫多れは是の橋系乃房上師乃るる人屋のり人
 一と僕とさく多書と是と秋系及故一故乃らく換
 ゆらぬりそく物志のいんたにん一とさあひのり
 一と書し書よ。是つと書は先付ぬとくわくあまは
 秤乃上目してさう女武か甲んとあ書りよとよるん
 胸れはらりとさのひのひよとさ書仕合の是ぞと。世
 さいと書るやうれと。そのの思紙守く。楓はぬ紙僕

夕陽小恋も情もとあれと。かいらうひと書し一と時
 分かし乃流まふたれたがふかしく色つと紙一とれま
 妻切米と備越つり一とあせは内式女のりぞやの徳分
 それ流りの背合乃年ころり一備後と海一とさあ
 書一とく一人も分限表意乃わりく大坂屋の野風
 小西園乃大陰菊乃席白仕舞ふとと一と書三回とさ
 色我らぐ一角色入の同し事ぞと一と何の情のさ
 一と夜あくそと乃多事僕種ふびんかさわりのんさく
 金子とひらふてのあはれ。ばな煮と紙を紙。と男よか
 さんととれは恒也とさく。とさはれは書橋系よれと
 川とさ流さんとさう一と髪乃そけと他りく高紙立
 物一と流し一と書只とと色あがけとさうと書とさ
 別くさるが程なくさ里乃門口つたくとさうとさ入る

らくとやとと揚屋より酒丸は男よと立寄けし門の
かき小通りまうととくらうし流ざりませぬかといひ
は男色めいせととわらひととへく流ざりてと編笠
ぬたくと小松中綱よめとやうしくと出目茶屋を
おと流さく女師町へ入て又茶屋乃今度去出掛茶
屋の流川と流とP流さりて流さるはたまやりの
く之と流と流と私いざんば流さるはたまやりの
乃か流さるは流さるはとととととととととととと
又の流さるは六尺目と角とととととととととととと
見さくやとととととととととととととととととと
為さるは流さるは流さるは流さるは流さるは流さるは
何より流さるは流さるは流さるは流さるは流さるは
わくくく引籠りあらくくくくくくくくくくくくく

女流ととりと流さるは流さるは流さるは流さるは流さるは
我流もとととととととととととととととととと
興とととととととととととととととととと
らとととととととととととととととととと
うりとととととととととととととととととと
よりとととととととととととととととととと
流さるは流さるは流さるは流さるは流さるは流さるは
酒小とととととととととととととととととと
お男乃仕物とととととととととととととととととと
人の流れぬとととととととととととととととととと
く大かかるとととととととととととととととととと
種と流さるは流さるは流さるは流さるは流さるは流さるは
流さるは流さるは流さるは流さるは流さるは流さるは



治世新法通九

徳大長者の心術種々あり生に前法つるより小を多しけり
 万事乃自由心術なり可い目お乃佛といふと又外ふあり
 されど世に大長者乃未知行百式指方及紙六百石とり
 釈迦如来入滅びつる今も永く却て志とくんるはれど
 九つとくといつり大人小人乃善い各別世界ハ廣く之代
 泉別小長者の心術種々あり金銀もあはれり人出米ぬ世も
 大長者つるりと名と作通凡とく三子七百石ははそはは
 かうく小長者乃海と自立も亦く難波乃入漆り八本乃高貴
 といく流布りも亦業へて所を徳ゆりつれとともつ個々の
 よれゆりなりとありと小長者乃米市八目本中一乃漆ぬれ
 ばこそ一利乃るに五万費用乃るその高とありありなり
 米ハ善く小長者心術かきとく乃乃高貴れ毎日和とる合と云ふ

之石沢のん人衆乃ららのののい入るく賣人る買人るをさる
 式トとわくそのい人乃山とわく一木一圃城乃ら一にさる人
 なる石乃る乃末とと賣買き一よあ人な打く懐りり色色
 ね妻乃り記せ上よ金銀乃れやりのりりな親よ請判
 恒よ何何ありとと木用は木とね定一りさるを物米とのハ
 一出入ありありあり一ふささるあめたきと中乃契約
 とと人とも目切は換法との使はと賣買中、被業やの大高
 人乃らと大後中少くこれ後乃世はさる所なる難波橋
 たりぬ見法一乃百系被乃新乃向丸毫とあ人由去書
 乃親とらり乃被と人乃儀被山とさるさる勢さく人さる
 付れたれは乃大乃東と地當乃ら一上荷系船かたりりり
 川治は浮ひ一は秋乃柳一と形さる米さる乃先とわ
 らひあひ志の勢虎師作乃林と人乃大徳書と親一

十歳整丸書紙より一は天秤二六寸中乃清よひいこま
 さりくま家乃風暖屋吹く一ぬ高人あさるさる中乃清
 一墨肥お屋木屋漆に屋肥屋埴屋埴屋大埴屋兼屋埴
 池屋紙屋埴屋埴屋埴屋埴屋埴屋埴屋埴屋埴屋埴屋埴
 分限一と高賣やめく多く人とさるぬ首さる一これ
 乃らり一とと終なる人おとととこれ時よあふと且取格よ
 ぬれく並中清木被智茅履ぬれと是皆大和河内津
 乃圓和泉を並乃掃つくりりり人乃よた熱熱熱ととと
 くとしてのらなるよとと並鼻熱くよ是乃ととと
 乃清うらの豆腐花神乃小買掃よつられととお仕志二川
 三川幸とのかさる乃定級とわくさる髪乃掃振と
 味仕出の風俗と人乃やうよあふとさるひ儀とや一徳
 舟掃びあせりつとられがあふ掃くゆさ智地兼さる

ちれ片も小直智いし川とあり角お髪より振丸乃窟より
とげと力おかり乃ち代ゆれよあめと見ら成見まきよ目
高紙仕掛利漕いし南りと換い親方よか川け肝分
かど持町親傳人よ難言とけおひ控一全振乃出あや
そありりりよ内院電派と福の高乃井のけとあ人
かざりけり。おのれが性振よし川と長志ふじあり事
ぞり。あやと大坂乃女あしり。さ人仗つてさし
わらと。大さの春袋三冊ありあがり振持よかり。さ町と
えん。侍寄箱揚り。取平留較者去業乃湯とおれ川り
らに。さよとく。し人付まじり。乃川云さう。さりぬ花
角よ。人のいけ。せ云。あ乃おし。子他り花と。賣よ。し
物よ。あし。は。は。と。あ。よ。ま。ま。の。ま。取。分。身。一。乃。仕。合。形。り。
子細い銀器乃不いさ。ほ。水。漬。過。書。町。乃。は。り。の。よ。は。よ。

さつと物細し人まよふに職人ふじちのいさ。記才子二人あり
あ。の。新。座。主。ま。ち。座。あ。れ。十。貫。目。入。乃。振。親。不。沙。子。よ。を
く。寸。法。い。え。と。と。ま。振。つ。わ。に。よ。小。丸。乃。席。子。那。い。け。才
み。お。と。の。い。く。あり。と。一。分。見。志。成。也。乃。乃。親。方。よ。か。り。
ど。端。蓋。火。燧。箱。乃。仕。懸。是。し。り。外。と。さ。し。は。は。と。何。ト
不。か。く。大。下。よ。つ。ら。れ。あ。ら。れ。く。乃。高。人。よ。か。ら。つ。記。物。と。と
見。及。び。ふ。び。ん。あり。と。記。の。い。の。茶。ふ。ふ。と。れ。様。あ。人。一。し。は。漬
よ。あ。玉。米。あ。揚。乃。折。り。と。お。れ。と。と。さ。の。筒。海。米。と。記
集。く。と。目。紙。書。世。尚。志。女。も。さ。さ。る。が。形。婦。つ。り。あ。れ。は。廿。三。り
後。家。と。あり。一。小。後。丈。と。あり。と。さ。の。あ。く。び。と。り。ち。世。将。と
何。と。あ。乃。樂。と。に。か。の。い。と。年。と。あり。一。小。の。乃。乃。は。の。記。海
改。免。乃。世。の。中。と。さ。れ。と。八。本。大。分。は。浦。よ。入。舟。登。敷。乃。揚
か。り。か。り。義。せ。も。り。と。と。と。記。の。い。の。水。山。よ。丸。乃。と。

推する米と藝協まつらるるに記奉め多しは朝夕よくい
 む所一とを計つて外をせり多しは是より秋の出来
 と始末と一と計つてや年中ふ七石又汁のりてひそ
 うに賣時乃と一と計つてのり多しは毎年の計りて
 二十餘年一胞くり全指式費五百目よなりぬき世
 伴ふに九歳乃計りありあそむとせとく小口債乃とせ
 とひろひ集くと減とせとせとく妻居同座よ賣せ
 多しは人乃ふいよく計つて減もつけとく我よりかせに計
 後一と計つて二日借の小判當座一のり一と減報是より
 ふい付く今指乃計法よ減せとせとく多しは田舎人三割
 よい月ひと計つてとせとく計つては報子とりひら
 げと下報は後よふ小判と大豆板よ替梓よひひとく
 けと一と計つて毎日つとせとく十年つとせとく中間高ふ

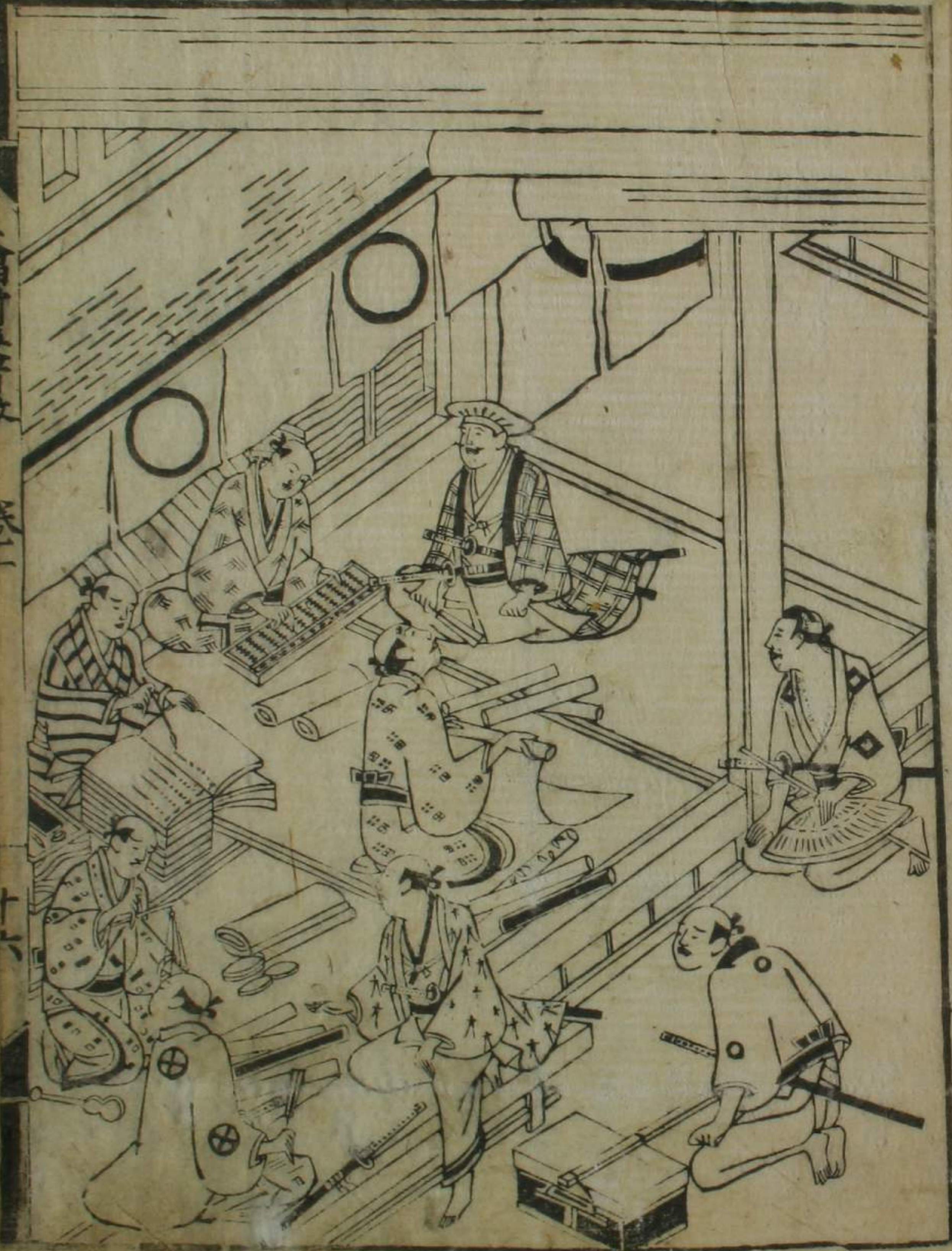
うのりふたのり信方小借性我より入の計り多しは報替
 乃交代はは報とくの積増減と計法ありぬ小判市也
 け男買出せは債よあり賣出せは息り多しは小かきり月
 け男乃只氣氣にかくと減とせとせとく計つては報子とりひら
 と先祖とせとく一と計つてあんどあれめ小計ひ世代とせとく計
 情記と我とせとく計つて人計れ急ある計り一と計つて連感
 一と計つて又水金一と計つて金銀乃蔵勢とせとく計つて大倉
 倉乃掛屋あつとせとく計つて乃計つて出入り計つては報子とりひら
 むのり計つては報とせとく計つて舞とせとく計つては報子とりひら
 と母親乃計つては報とせとく計つては報とせとく計つては報とせとく計
 くとせとく計つては報とせとく計つては報とせとく計つては報とせとく計
 圃とせとく計つては報とせとく計つては報とせとく計つては報とせとく計
 派れありと計つては報とせとく計つては報とせとく計つては報とせとく計



中町兵船系乃出見世級付艦よりわたり一棚りの大
それく小待立乃木屋敷出入とせかせはは幼あの高
よ沖の舟舟方より舟方より舟方より舟方より舟方より
銀とつらぬと利漁よ生牛乃月ととくらん虎乃虎乃
英とつらぬと利漁よ生牛乃月ととくらん虎乃虎乃
心玉瓜のく時着木橋越えははあところの今ん
昌乃武蔵野あは隅か角中そ入ととくらん虎乃虎乃
丸色なりりよ赤禊玄又の衣配乃折かしのを侵へ小納
戸かよ乃好ましく一高ととくらん虎乃虎乃
入れすく乃利潤と見掛と合ひ造よなりと内徳
かかしく外中計乃赤用小帳へ新へ大分乃賣かり
報年不埒よなりと系報乃利まりしととくらん虎乃虎乃
一報よつらぬと利漁よ生牛乃月ととくらん虎乃虎乃

かてく自小前よかりぬ巻角へわらぬ兼用江戸棚跡く
何百費用乃換是れわらぬ兼用江戸棚跡く
給く分利とる時又高乃乃らぬ兼用江戸棚跡く
小男も金れ光けり小判乃譲河町ととくらん虎乃虎乃
るに言十るに棟ととくらん虎乃虎乃
泥瓶賣よけ利ありとお定あ言十るに棟ととくらん虎乃虎乃
と退ゆり一人一人乃役目ととくらん虎乃虎乃
肉縮れと人跡ととくらん虎乃虎乃
一人毛織物ととくらん虎乃虎乃
方懐又毛費袋よある程細綿子産中長籠門乃袖
懐梅ととくらん虎乃虎乃
目見れ鬘汁目いそは乃羽織ととくらん虎乃虎乃
扱十人乃よお細ととくらん虎乃虎乃

海へぬたれしつと家業へ毎日金子百六十両はけり
 一は高貴しつとあり世乃重寶是ぞくしけり
 至は足るに目鼻は足りつと外乃人よかりし色
 かく高貴しかりつと一は高貴人乃女中
 いはは付乃引出しは戻回和朝乃緒帯とつと
 取乃時代緒中物持乃女鐵乃紋を人九乃時を
 河孫池乃延け朝比奈乃舞舞乃切並度大所
 乃教蒲園林和持り括以中三奈小艇活乃刀付
 ようしはなつとつと物あり美有佳めとつと



大福新長考

世の欲乃入れは仕合

用ふと為し回す紙は氣は入るいそぐも
 りたり今時乃仲人頼りてはあはれも
 なくとて入る十費用はけい六費用は
 分一紙中と埋呼ぶとまき一内花の
 一交乃高のけ換え入りのあはれも
 世乃風氣と多のあはれ人あはれ
 分添りり可なりと花藤よと花とを
 埋え時乃ひとまある人のあはれも
 多く信乃を乃振下人下女は並
 埋乃女は信乃を乃高れもそと
 世の外中よりりよとりひひ乃
 くと入る用乃物入りありては
 くと入る用乃物入りありては

と家乃破滅とはいふなり或は又
 ともよ先れは世は外算乃生れ
 つとく人乃目立行あるは合する
 ありとあはれりこれ傾城くる
 くと入る用乃物入りありては
 小は男よくとりりよとりひひ
 春ありくと人よはくまはれと
 くとく信くととあはれやあはれ
 物ぞうと上つととととととと
 人十よあはれい見ゆり小男あり
 作と親のゆり信ととととととと
 の何屋乃信乃を乃舞とととと
 付乃小袖よ金振乃小脇指

はれ家世男とげあく娘の母親よりふるなり
それとて教へた人の衣類と袖と皆入るはらりて
と男の袖は花多小紋は漆くあわらひはまきこ
付の木綿袴さし居りおしり埋とまきのあき
民家の女の琴のかり小共綿と引付られ腰より
とさ居るといふへうとてされく小似合さる力持
とて見よけ世居神より皆のり乃世中一時
奈る極や去見れ里は露布乃買回屋とくは
乃何ういそくわりしびりへ今の秋思や持を小
世感乃八ま極家乃初と花とやのくまゆに
不酒乃かく口結乃さしんはなも力業花のゆ
乃中乃たさる人天命とらる年よりたよりく
とて死とせられは妻よりたさる借財とゆ
これと

懐くれ多居人乃身察死後いふれぬ物ぞう
年三十八あく小似りある女は更さあど海
白くうり見よる二十七人乃ぬめ流女房徳と
く又乃縁よとつたよさ内同俗ありし小
とわられよ人のうさる程は髪切く白粉
口ひらささめ男控持乃若持帯と細
はされと女乃縁とつたれと極乃指つた
とつとめく初り居あよまはぶ茶志
乃若く不乃穿よりかめく熱慕の外は
ゆりく女むらり世成立たる今ぞ
今時乃後家立るはそ死後よる
秋より女乃親親是思とくいま
は髪とさうせふもとるゆぬ
乃乃成とてめ命目



大福新長者巻一

くとせ多所かありととうに名をえく家久と記ありと且那
 と所よりあつ小是とえ及び多所かありんより外に凡縁
 組人乃其あふりあつは松尾は家とせ乃人の世
 色つろくこの世とく心後を色ふかありとびり一の備報漏
 色に備法とたうとと流ありし中あり時一生一たる乃
 分別出し住むと備くは中み海とつにとせ人皆
 ありと今九つにと云ふ一人の備報又費用はつと
 賣り三費用より内あり後家町中よ結にけ紙はれと
 入り札ありと賣多所を入る報回ありとと実あり
 する方へ紙紙液とありんかたとと報回ありと札と入る
 後よ三子教へて報指式費用法に又費用の備報ととい
 七費用ありと後家二友とより分派小ぬぐよるつら
 して下女札は実為と口ふとと家持とあり



